
pasts guilty

覇剣士

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

past s guilty

【Nコード】

N5652B

【作者名】

覇剣士

【あらすじ】

浅倉家に住み込みで護衛として働く竜。浅倉家当主の娘である澪。楽しく毎日をすごす二人に忍びよる影。いつたい、二人のもつ忘れたい過去とは何なのか？ past s guiltyここに開幕！！

第0話

真っ暗で何も見えない。

聴覚以外の感覚は全く機能していないようだ。

いったい何が起きたのだろうか。

辺りからはゴウゴウと、唸るような音だけが聞こえてくる。

「ゴウ、畜生……。」

声が聞こえた。
俺の声だ。

「ゴウ、……これは……？」

何かに驚いているようだ。

同時に足音が聞こえる。

「くそっ、なんだってんだ!？」

別の人間の声がした。

「カイツツ!？」

俺が言った。

相手の名前か？

「……………リュウツツ!？」

カイ?が言った。

リュウ。俺の名前だ。

「……………お前……………」

沈黙が続く。

そして足音が聞こえる。

「違っつ、カイツ、おいっ!!!」

突然、何かが激しく崩れるような物音がした。

「うわっ!?!」

何が起きているのか分からない。

足音が再び聞えた。

「リュウツ、ここにいたのね。早くこっち!!!」

女性の声が響く。

「……………カイ……………」

音は止まった。

闇と静寂が俺を包む。

そして一気に目の前が明るくなった。

「ハア…ハア…」

俺は自室のベッドに横たわっていた。

全て夢だったのだ。

荒い息を整えながら、そのことに気付く。

部屋の中は、窓から差し込む光で満たされていた。

しばらく放心状態だったが、すぐに脳を活動させる。

ベッドから飛び出て、衣服を仕事着に変えはじめた。

俺の職は変わっていて、ワイシャツを着てコートを羽織る。

コートの内側にあるホルスターには黒光りする拳銃。

俺の名前は竜。

その変わった仕事っていうのが護衛。

ここ浅倉家に住み込みで働く、ボディガードだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5652b/>

pasts guilty

2010年12月14日15時12分発行